

科学研究費補助金研究成果報告書

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：平成 18 年度～平成 20 年度
 課題番号：18520228
 研究課題名（和文） 「分離独立文学」を中心素材とするインド英語文学の全体像の構築
 研究課題名（英文） A STUDY OF INDIAN WRITING IN ENGLISH AND PARTITION LITERATURE: AN OVERVIEW
 研究代表者 大平栄子（OHIRA EIKO）
 都留文科大学・文学部・教授
 研究者番号：20160616

研究成果の概要：現在までに出版されている分離独立文学テキスト、関連する映画・テレビドラマ、民謡などを網羅的に収集し、分析し、分離独立文学の全体像を把握した。これにより、分離独立文学が、インド英語文学全体の中において極めて重要な位置を占めることを確認し、インド英語文学の体系的把握に向けた第一歩を踏み出すことができた。また、分離独立文学研究書を網羅的に収集し、研究史の整理、および研究動向の分析・評価を行なった。同課題に関連するインドの研究者や、同テーマを素材とする映画監督との意見交換、および分離独立体験者の家族からの聞き取り調査などを行い、課題に関する総合的理解を深めた。また、分離独立に関する最新の歴史研究を検討し、争点を検討し、従来の見解がどのように変更されているかを確認した。分離独立文学は女性と社会的弱者に甚大な被害をもたらすことになったため、ジェンダー研究の視点から分離独立文学研究の深化を図った。暴力の被害者としての女性というイメージを反復するテキストとは異なる、宗教紛争を超越するジェンダーの視点をもつヴィジョンが提示されているテキストの存在を探ることにより、分離独立をめぐる多様な視点を浮き彫りにした。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
18年度	1,600,000	0	1,600,000
19年度	900,000	270,000	1,170,000
20年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	480,000	3,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学 2902

キーワード：①英語 ②文学 ③インド

1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者はインドのデリー大学大学院客員教授としてインドに滞在し始めた 2000 年 12 月からインド英語文学に関わる資料収集を進めてきた。さらに、この問題に関する関心を深め、個人的に研究を進めるとともに、問題関心を共有する内外の研究者と連携をとりつつ、共同研究を遂行してきた。

(2) 2001 年から 2005 年まで毎年夏期に分離独立に関して、デリーおよびマニプール州インパールにおいてナガ族の人々からの聞き取り調査を行なった。

(3) 『沈黙の向こう側 インド・パキスタン分離独立と引き裂かれた人々の声』の著者であるウルワシー・ブタリア氏やデリー大学英文学科教授のマラシュリ・ラル氏と研究の打ち合わせ、意見交換をし、研究協力について依頼し、快諾をえた。

2. 研究の目的

(1) インド英語文学の重要なテーマの一つである「分離独立文学」に焦点を合わせて研究を遂行することにより、インド英語文学の体系的把握とその文学史上の位置づけに向けての第一歩を踏み出すことを目的にしている。

(2) 現代史上最悪の悲劇の一つである分離独立文学の総体的把握を試みると共に、女性問題でもある印パ分離独立について、ジェンダー研究の視点などに関連づけることによって、方法的な面からもこの分野の研究の深化を図ることを目指している。

3. 研究の方法

(1) 現在までに出版されている分離独立に関わるテキスト、関連する映画・テレビドラマ・民謡などを網羅的に収集し分析を加え

ることによって分離独立文学の全体像を把握する。

(2) 分離独立に関する最新の研究書を集め、研究史の整理を行なう。

(3) 分離独立についての体験者から伝えられた物語についての現地調査をおこなう。

(4) インドの研究者との意見交換のためインドに一定期間滞在し、意見交換を行なう。

4. 研究成果

(1) 基礎資料の収集については次のような成果をあげることができた。従来内外における研究では以下のような網羅的資料収集はなされてこなかったことである。

①現在までに出版されている分離独立文学テキストの全て、および映画、テレビドラマなどを網羅的に収集することができた。英語文学テキストのほか、地方語のテキストの中で英語に翻訳されたテキストについても収集できた。また、ベンガル祭やジャイプール文学祭でのみ上映された非売品の映画も収集することができた。

②分離独立文学以外のインド英語文学テキストについては独立後出版されたものを中心に網羅的に収集することができた。

③分離独立文学研究書については絶版図書を含め網羅的に収集できた。

④関連資料である、分離独立に関する歴史研究については最新の歴史研究を含め、代表的研究書を網羅的に収集できた。

(2) コルカタ、デリー、シムラ、アムリトサル、チャンデイガル等で分離独立についての体験者家族の物語について聞き取り調査を行い、独立後 60 年経過した現在において

も分離の後遺症が見られること、それに関する裁判も継続していることを確認した。

(3) この課題に関する代表的研究者たちと共同研究を行なった。20年度においては、デリー大学英文学科教授の Malashri Lal 氏を招聘し、インド英語文学についての講演および研究会を開催することができ、インドにおけるインド英語文学研究の現状について確認することができた。

(4) 上記の資料の読解・分析および共同研究の結果、分離独立文学の全体像を把握し、問題点を整理することができ、インド英語文学の体系的把握に向けた研究の第一歩を踏み出すことができた。

①アカデミズムからも 70 年代まで無視され続けてきた英語文学が世界的に認知され隆盛をきわめるのに呼応し、その研究も活況を呈しているにもかかわらず、体系的に全体を俯瞰できる状況には至っていないこと、総体としてのインド英語文学は未知数であることを確認した。インド英語文学の名称・定義・出自などについての研究者間の議論には決着が付いていない状況である。今後の重要な課題としては総体としてのインド文学を踏まえ、インド英語文学を世界文学、あるいはポストコロニアル文学を構成する有力な文学として位置づけるべきか否か、といった位置づけの問題がある。

②分離独立文学の総体を把握したした上で、それがインド英語文学全体の中においてきわめて重要な位置を占めることを確認した。また、分離独立研究が近年特に盛況になったにもかかわらず、その体系的研究はきわめて乏しい状況であることを確認し、その特質と課題を整理した。

③個別テキスト分析の結果以下のような問題点・課題が明らかになった。分離独立は女性問題であるため、被害者としての女性イメージに描写が集中するテキストが多いが、国家のアイデンティティを維持するための道

具として機能させられる現実に抵抗した女性の物語が乏しいこと、今なお分離要求をしている複数の州の民衆の視点から分離独立を見たテキストが乏しいことなどである。

(5) 以上の研究成果を毎年ハワイの人文国際学会で発表し、内外に発信することができた。現地インドにおける国際学会(デリー大学ジェンダー教育研究センター主催の国際学会および国立通信大学主催のインド英語文学学会等)に招聘を受け、研究成果を発表することができた。それを契機にさらなる共同研究の申し出があり、インド英語文学研究書出版の準備が複数進行中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

① Ohira Eiko, "Midnight's Children as a Narcissistic Narrative" Hawaii International Conference Proceedings CD-Rom, 2009, 607-621. 査読有

② 大平栄子「分離独立文学研究の動向と課題」都留文科大学研究紀要』68集 2008年 81-98頁 査読有

③ 大平栄子「Githa Hariharan と『夜の幾千もの顔』——反逆と共謀の女たちの空間」『英語青年』2007年1月号 研究社 22-23頁 査読有

[学会発表](計 7 件)

① OHIRA EIKO, "Female Narrative of Revolt and Jouissance" (International Conference on Indian Writing in English) 2009年1月19日、インドのデリー

② OHIRA EIKO, "A Quest for Identity and Epiphany about Love: About Daddy, a Partition Novel" (International Conference on Arts and Humanities) 2008年1月15日、北米、ハワイ

③ EIKO OHIRA, "Complex Growths: Ice-Candy-Man and Sisterfood" (Hawaii International Conference and Humanities) 北米 2007年1月16日、北米、ハワイ

〔図書〕（計 2 件）

- ① 大平栄子 『アイス・キャンデイマン』
——アイスキャンデイマンと三人の女たち』
『柳五郎記念論文集』大阪教育出版 2007
年 669—680 （共著）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0件）

〔その他〕

6. 研究組織
(1) 研究代表者

大平栄子

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者